

2024(令和6)年度 自己評価・学校関係者評価報告書

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

東大阪市菱屋西 3-3-7 ☎577-8550

学校教育法第28条及び学校教育法施行規則第39条により、2024(令和6)年度の自己評価及び学校関係者評価を実施し、設置者に報告した内容

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる保育」、即ち、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間関係の基礎を培う。

2. 2024(令和6)年度重点的に取り組む目標・計画

子どもが主体となる生き生きとした保育を提供できるように、教師力や保育力の向上に努める。そのために、

- ・園内外での保育研修に積極的に参加する。
- ・園児および保護者に関して、教員間で情報を共有し、対応について全員で検討する。
- ・子どもが安全に、そして安心して遊ぶことができるよう、遊具・設備の点検整備を含めて危機管理に努める。
- ・長期休暇中の預かり保育のあり方について、検討を続ける。
- ・キンダーカウンセリング事業を継続する。
- ・行事等での暑さ対策を強化する。
- ・幼稚園活動の広報に努め、子育て支援としての「園庭開放」や「未就園児クラス」などの機会を通して、入園者の確保を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

中長期計画における目標・アクションプラン(実行計画)期末評価

評価記号の説明:

| | | | |
|---------------------|-----------------|------------------|-----------|
| S: 計画通り(以上を含む)実施した、 | 或いは大きく成果を上げた、 | 或いは目標数値を達成した | 90~100% |
| A: 計画をほぼ実施した、 | 或いは一定の良い成果を上げた、 | 或いは目標数値をほぼ達成した | 80~ 90%未滿 |
| B: 計画をある程度実施した、 | 或いはある程度の成果を上げた、 | 或いは目標数値をある程度達成した | 60~ 80%未滿 |
| C: 計画を下回って実施した | 或いは成果はあまりなかった、 | 或いは目標数値より大きく下回った | 10~ 60%未滿 |
| D: 計画を大きく下回って実施した | 或いは成果はない | | 1~ 10%未滿 |
| E: 計画を実施しなかった(評価外) | | | 0% |

| 大分類 (課題) | 中分類 (基本施策) | 小分類 (具体的施策) | 2024 年度 | 2024 年度 期末評価 | | |
|-------------|----------------|---------------------------------|---|--|--------------------------------------|---|
| | | | 目標数値 | 単年度 (2024) のアクションプランに対する 達成度 (%) | 単年度 (2024) のアクションプランに対する 評価 | 単年度 (2024) のアクションプランに対する 定性評価 (コメント) |
| 入園者の確保 | (1) 教育の質の向上 | a. カリキュラムの充実 | ・保育内容の検証と改善のサイクル定着 | 100% | S | |
| | (2) 職員の質の向上 | a. 職員間の共通理解 | ・全職員が共通理解を図るためのミーティング実施 (年3回) ・可視化した保育内容の更新 | 100% | S | |
| | | b. 研修の充実 | ・現在の園内研修 (アドバイザーを招いた保育研修) について、実施内容・時期の見直しと改善 | 70% | B | 園内研修はできているが、今年度は外部のアドバイザーを招くことはできなかった |
| | (3) 子育て支援の充実 | a. 長期休暇中の預かり保育の実施 | ・検証と改善 | 90% | S | |
| | | b. 給食の増加 | ・週3回の給食の実施 | 100% | S | |
| | (4) 商圏エリアの拡大 | a. 車送迎の実現 | ・本格導入の検証と改善 | 90% | S | |
| | (5) 広報活動 | a. ポスター貼り、広告配布、Web 広告、ホームページの充実 | ・新しい広報媒体を含め、有効な広報媒体の活用・検討 | 80% | A | |
| 未就園児の確保 | (1) 未就園児クラスの充実 | a. 保育時間の延長 | ・検証と改善 | 100% | S | |
| | (2) 園庭開放の充実 | a. 広報、SNS の強化 | ・改善した広報の実行 ・引き続きアンケートを通して広報の効果の検証 (来場者数: 50 人) | 80% | A | |
| | | b. 内容の充実 | ・実施時に行ったアンケートや、他園の取り組みを参考に、内容の検討、充実 | 90% | S | |
| 安心・安全の確保 | (1) 環境整備 | a. 点検・修理・修繕 | ・点検シートをもとに日々の点検、必要な修理 ・修繕計画をもとに実行 | 100% | S | |
| 大学・高校との連携 | (1) 様々な学科等との連携 | a. 健康栄養学科との連携 | ・前年度の実施状況の検証と改善 | 90% | S | |
| | | b. 化粧ファッション学科との連携 | ・学科と連携して試行 | 0% | E | 具体的な内容を定めきれずに、中断してしまった |
| | | c. 児童教育学科との連携 | ・児童教育学科との連携強化 | 90% | S | |
| | | d. ELTC (組織変更後 SILC) との連携 | ・前年度の実施状況の検証と改善 | 70% | B | 現状は維持できているが、次の中長期計画へ引き継ぐ |
| | | e. 児童教育コース (高校) との連携 | ・児童教育コースとの関係を維持する | 90% | S | |
| 地域との連携 | (1) 地域交流の充実 | a. 幼稚園行事の地域開放 | ・改めて地域との交流のあり方を検討 | 0% | E | 次期計画で、仕切り直して進める |

4. 総合的な評価結果

- ・暑さ対策のため、7～9月の行事について、開始時刻や内容の修正をおこなった。
- ・キンダーカウンセリング事業は、園内に向けては「子育てお悩み相談室」と名前を変えて、気軽に相談できるようにした。利用者は園児の保護者が主で21年度の導入以来、延べ件数で10件、17件、22件、30件と増えている。
- ・研修やオンライン研修等に積極的に参加し、一人ひとりの資質向上に努めることができた。また、全教員が保育観について共通理解し、個々の園児についての情報(個人懇談などでの)を共有することができている。
- ・「園庭開放」などの機会をとらえて、積極的に広報を行い、入園に結びつけることができた。
- ・「未就園児クラス」についても、さまざまな機会をとらえて広報を行い、人数を確保でき、次の入園に向けての導入ができた。
- ・ハグノートについては、登降園のチェックをはじめ、お知らせ、緊急連絡など利用が進んでいる。

5. 今後取り組む課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|------------------------------|---|
| 子育て支援のあり方について検討(長期休暇中の預かり含む) | 夏季休暇中などの預かり保育について、「幼稚園」として対応できる範囲を整理しなおして検討する。職員確保が難しく、マンパワーの不足から十分な対応が厳しくなってきた。職員確保に努めるとともに、対応可能な子育て支援の範囲を絞り込む必要がある。 |
| 保護者対応 | ハグノートを使って、園費などの集金についてキャッシュレス化を進める。 |
| 危機管理の対応 | 熱中症対策として、エアコンの温度設定・空調施設の更新など、検討を要する。 |
| 職員確保 | 非常勤職員の確保が特に厳しい状況で、その働き方に関して、シフト制の導入などを検討する。 |

6. 学校評価委員会(学校関係者による評価委員会)の評価

評価委員会：2025(令和7)年 3月21日実施

- 保育全般に関しては、昨年に引き続き、
- ・「根っこを育てる」という言葉が響いている
 - ・体験型幼稚園ということで、人との関わりや経験を大事にしている
 - ・保育理念を貫いていることは素晴らしく、貫いてほしい
- などの言葉をいただいた一方で、
- ・行事のDVDを販売してほしい
 - ・お知らせの伝え方の再検討(紙媒体を減らす)を求める
 - ・給食3回は少ない

・アンケートは無記名の方が本音を書ける
などの意見をいただいた。

7. 財務状況

学校法人樟蔭学園として、監事及び公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。